



米原の曳山について

長浜市立長浜城歴史博物館
学芸担当主幹 中島 誠一



千秋楽（松翁山）

平成9年10月11日夜 湯谷神社境内

滋賀県坂田郡米原町米原は、慶長8年（1603）の港の新設以来、水陸交通の要衝として繁栄してきました。米原曳山まつりは、この宿場町の山腹にある湯谷神社の秋の大祭にあたる10月10日を中心に行われます。山を曳き出し、境内そして町中で子供歌舞伎を上演するのです。もちろん上演までには、歌舞伎の練習、曳山出発の順位を決めるくじ取りなど長期にわたる色々の準備が必要です。山の上で芸を披露する宵宮（9日）本楽（10日）後宴（11日）の3日間は、これらの努力の成

果を披露するまさに晴れの舞台といえるでしょう。

ところで私たちがあたり前のように呼んでいる曳山とは一体なんでしょうか。曳山は、山本体や付属する輦（ながえ）などを直接、もしくは綱などを使い人力で牽引されて移動する車輪付きの祭礼具です。

担いで移動する舁山（かきやま）に対する表現で、曳いて動かすという機能面からの総称であり、引き山、牽き山、挽き山とも書いたりします。

さて滋賀県内には、曳山まつりという呼び名のまつりが多く見られますが、その形はさまざまです。米原や長浜のように子供が曳山の舞台の上で歌舞伎を奉納するもの、大津のようにからくりを山の上で動かしてみせるもの、水口や日野のようにその時々のはやり物を山の一番上にかざるものなどがあります。これらの山は趣向の違いから、芸山、からくり山、飾り山などと呼んだりもします。次の一覧表は、県内で行われている（行われていた）曳山まつりのなかから、舞台付の山を抜

き出して紹介したものです。今のところ14か所で確認、芸山の数は30余基を数え、北は伊香郡高月町雨森、南は五個荘町金堂にまで及んでいた様子が伺えます。調査を続けていけばこの数は増大することでしょう。ただし芸山のふるさとといってよい滋賀県においては現在、曳山の舞台の上で子供歌舞伎を行っているのは、ここで紹介する米原と長浜の2か所だけです。その影響力の強さは今ではむしろ県外の揖斐地方や北陸地方に濃厚に見ることができます。

所在地	行事名 (通称名)	曳山の出る日	中心神社	台数類系	芸 能・他	保 存 方 法
高月町雨森	秋 祭	9月13日 (明治40年頃)	天明神社	1基 芸山	子供歌舞伎シャギリ等があった。	国立民族学博物館にて展示中
高月町井口		明治～大正頃	日吉神社	2基 芸山	不明	売却
虎姫町5村	春の祭礼 秋の祭礼	毎年4月3日と8月18日に行われていた現在8月18日に虫干し	日前神社	1基 芸山	子供芝居があった。	山蔵にそのまま保管
長浜市宮司町	春 祭	毎年5月3～4日	日枝神社	1基 芸山	子供歌舞伎があった。	山蔵にそのまま保管
長浜市	長浜曳山祭	毎年4月13～15日	長浜八幡宮	12基(芸山) +1基	子供歌舞伎・シャギリ	山蔵にそのまま保管
米原町筑摩	鍋冠祭	毎年5月3日	筑摩神社	1基(芸山)+ 4基[太鼓山]	囃子	山蔵にそのまま保管
米原町米原	米原祭	毎年10月10日	湯谷神社	3基 芸山	子供歌舞伎(一基のみ)	山蔵にそのまま保管
米原町醒ヶ井		過去に行われていた (大正頃)	加茂神社	3基 芸山	子供歌舞伎があった。	長浜等に部分的に売却
彦根市稲里		過去に行われていた (昭和3年頃まで)	不明	1基 芸山	子供歌舞伎があった。	山蔵にそのまま保管 (平成9年に解体保管)
能登川町垣見	秋 祭	毎年4月25日	能登川神社	1基 芸山 1基 飾り山	子供歌舞伎があった。	山蔵にそのまま保管売却(昭和21年頃)
五個荘町宮荘	春の大祭	毎年4月15日に近い日曜日	5箇神社	1基 芸山	子供歌舞伎・囃子があった。	山蔵にそのまま保管
五個荘町石馬寺	秋 祭	毎年9月18日～19日 (昭和10年頃まで)	雨宮神社	1基 芸山	囃子があった。	山蔵にそのまま保管
五個荘町金堂	秋 祭	昭和20年頃まで	大城神社	1基 芸山	芝居・囃子があった。	山蔵にそのまま保管
秦荘町岩倉	堅井曳山祭 (宮人祭)	毎年4月20日に近い日曜日	堅井の大宮	9基(飾り山) +1基(芸山)	飾り人形 太太鼓	山蔵にそのまま保管

さて、このように貴重な有形無形の民俗文化財である米原の曳山まつりですが、その歴史をたどってみると長浜との濃厚な関係にあらためて驚かされます。米原の山は、現在次の3基が伝承されていますが、そのいずれもが長浜の曳山の系譜を引くものだからです。

旭山（北町）の棟木には、「奉成就八幡宮御山一輛宝暦拾庚辰九月吉晨 大工藤岡重兵衛作之 神戸町」と墨書があり、長浜八幡宮の曳山として神戸町が宝暦10年（1760）に藤岡重兵衛に頼んで作ったことが判ります。すなわちこの山は、長浜の孔雀山の前の山に当るわけです。米原では、高月町の井口からこの山を買入れたと言っており、また井口では明治から大正時代に山を売却した（芸山一覧表参照）と言っています。



本楽（寿山）

平成7年10月10日



本楽（旭山）

平成7年10月10日

山の売り買いはよく行なわれたらしく神崎郡能登川町垣見や近江八幡市浅小井の山も日野・水口の山です。

寿山は、前柱の^{かざりかなぐ}銚金具が昇降竜であることや屋根の造形が似ていることなどから長浜の寿山を模して作成したものであろうと米原では言っています。この伝承を裏づけるように舞台屋根裏には「明治4年 米原寿山 長浜伊部町 藤岡（アト欠損）」と墨書のある木札が打ちつけてあり、やはり藤岡の手になるものであることは確実です。

松翁山は、長浜の藤岡和泉が幕末に翁山を模して制作したという伝承が米原にあり、加えて藤岡家に「湖東米原宿 南町組中町組」と墨書きされた木鼻型が残っているところからやはり、前の2基と同様に藤岡の手になる

ものであることは間違いありません。また山蔵にも同様の張り板に書かれた墨書きを見ることができます。

このように米原の3基の曳山は、長浜の13基の曳山のほとんどを世襲的に手がけた藤岡和泉によるものであることがわかり戴けたかと思えます。

藤岡は長浜伊部町に居住した宮大工といわれていますが、もともとは仏壇や祭礼具の制作をその生業としていたらしく、浜壇（長浜仏壇）の前身であるシンプルな形状の和泉壇と呼ばれるものが長浜の旧家に今も伝来していること、元禄時代の仏壇の絵図が残っていること、初代甚兵衛が長浜八幡宮の神輿を手がけているなどのことからそのルーツがたどれます。

長浜の曳山は、江戸時代の延享2年（1745）頃から制作ラッシュをむかえますが、北町の旭山とは兄弟関係にあたる孔雀山の亭の完成が文化12年（1815）ですから、旭山はいっ



宵宮（松翁山）見送り幕 平成9年10月9日



千秋楽の登り山（松翁山）平成9年10月11日夜



千秋楽の前に参拝を済ませた役者
移動は必ず肩車である（松翁山）
平成9年9月11日夜

てみれば長浜の古い山の形式を保つ重要な山ということになります。

こうして米原の曳山本体について考えるとその制作は、江戸時代中期に遡るものもありますが、購入されて米原曳山まつりに登場するのは明治以降のことです。もちろんそれまでに曳山まつりがなかったということではなく、前身の山の上で何らかの奉納芸を行っていたと想像されます。というのは米原の古老が語る「中町（松翁山）では明治時代には、まだ小さな曳山が、女山として女性用に用いられていた。また南町（寿山）でも今の曳山ができる前には、より小さな曳山が使われていた。」という伝承があるからです。女山は、県内ではあまり親しみがありませんが、日本海側の若狭や敦賀では今も夏の曳山まつりに登場して女の子が演技を披露する山として人気を集めています。

さて子供歌舞伎ですが、記録の上で歌舞伎の上演の様子が伺えるのは、松翁山の明治11年の「安達原三段目」という芸題です。そのほか同組の明治4年の神事勘定帳の出方扣（ひかえ）には「長浜 可常 かずら代金五両三步」とかかれており、歌舞伎の上演を思わせます。

なお米原の曳山または祭りについて詳しくお知りになりたい方は、

米原曳山祭調査委員会「米原曳山祭」（米原町教育委員会、1982年）

木村至宏編『近江の曳山祭り』（サンブライト出版、1984年）

『曳山・山車・屋台』（市立長浜城歴史博物館特別展図録、1995年）などの出版物を参考にいただければと思います。

滋賀文化財教室シリーズ No.174号

発行年月日 1998年2月2日
編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL(077)548-9780 FAX(077)543-1525